

仕上げた炭を選別する飯田さん



炭づくりに元気の秘訣あり 自然と人をつなぐ活動を展開

竹野地域には、長年、炭づくりを続けている男性がいます。炭づくりを通じて、地域の活性化や地区住民とのふれあい、そして自然の大切さを伝えようと取り組んでいる一人の男性を紹介します。

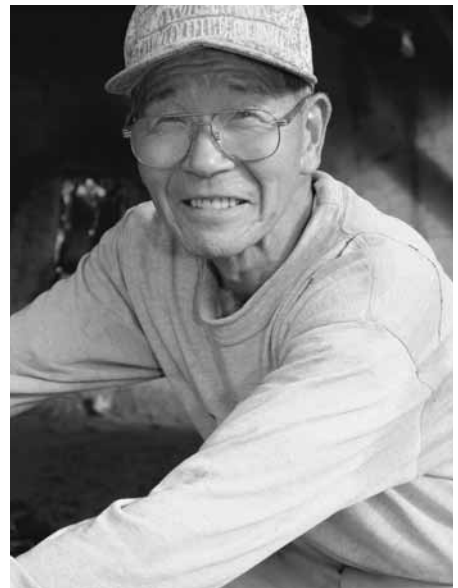
飯田^{よしじ}与市次^{あかがねやま}さん(71歳)竹野町銅山在住

父親に教わった炭づくり

のどかな田園風景が広がる竹野南地域。その自然豊かな地域の谷間を通る一本道を抜け、山に囲まれた場所で炭づくりに励んでいるのは、飯田与市次さんです。

飯田さんは「自然に囲まれて悠々自適に炭づくりに没頭しています」と両手を広げて得意げに豊かな自然を強調します。

飯田さんが炭づくりを始めしたのは、15歳の時。父親に教わりながら、炭づくりの「いろは」を学びました。その後、間もなく父親が他界し、教わったことを胸に、今日までその技術を高めてきました。現在では、半世紀以上の経験



配管工会社や保険会社などに勤務する傍ら、長年、炭づくりを続けてきた飯田さん。区長を歴任するほか、多分野の役員を務めるなど、地域に貢献している。趣味は日曜大工などの物づくり

を活かして、竹野南里山の会が開催する炭づくりの活動を展開しています。

火と炭と会話する

飯田さんが使用する炭材は地元竹野で採れた「コナラ」の木です。

炭づくりは、まず、密閉性の高い窯の中に炭材を並べて入れ、窯の入口付近で口火焼きをします。そして、全体に火が回り、炭材が自発炭化を始める、窯の口を小さくして蒸し焼きにします。炭化が終わったところで、真っ赤になった炭材を窯から取り出し、灰を被せてじっくりと火を消していきます。

このように、炭づくりは火を入れるのは最初の一回だけ

で、その後は、口を小さくしたり、火を消す微妙なタイミングによって、炭の良し悪しや特徴が大きく左右されます。これには、長年の経験と、研ぎ澄まされた感覚が必要になり、これが備わっていないければ、ただの灰になってしまいます。そんなところから、火と炭と会話する」と飯田さんは言います。

近所の友人が集まる 憩いの場

また、炭を焼く過程で取れる木酢液についても、興味深い話を聞きました。

木酢液は、炭を焼く時に出る煙を冷却し、液体にしたものをいい、園芸や農業などで殺虫剤や土壌改良剤の一つとして使われています。

飯田さんは、冬の寒い時期、窯の煙突に管を通すなどの手法を独自で考案し、その管に結露した水分を集め、木酢液にしています。

飯田さんの作る木酢液は近所でも好評で、主に園芸や農業に使われま



窯から丁寧に炭を取り出す飯田さん。出来具合が気になる緊張の瞬間

また、窯の熱で暖をとろうと友人たちが集まり、炭が焼けるまでの間、談話の楽しい時間を過ごし、ほっこりした笑顔が溢れています。

自然とつながり 付き合うことが大切

近年、森林破壊が問題になっていますが、「時々、雑木を切つてやらないと森林は育ちません。昔の多くの人々は、この炭づくりを仕事として生活してきました。自然とつながりながら続けていかなくてはいけない」と飯田さん。静かな山のふもとで、「パチパチ」「チンチン」という音で炭材の燃え具合を耳で聞き分け、今日も火を消すタイミングをじっと待っています。

強く正しく睦まじく

三江小学校（豊岡）

案内者 広山夏美さん
（こうやま）



三江小学校は、豊岡市街地の東部に位置し、周囲には、山あいの田園が広がっています。校区には、県立コウノトリの郷公園があり、時折、放鳥されたコウノトリが校庭の人工巣塔に飛来しています。三江小学校に通う児童会長の広山夏美さん（6年）は、金管サークルに所属して、トランペットを担当しています。そのほか、習字やピアノも特技です。



恵まれた自然と環境を利用して環境学習に取り組む三江小学校

三江小学校の特徴は、環境学習に取り組んでいることです。この環境学習は、「みつめよういのち」をテーマに、コウノトリ野生復帰の拠点となる県立コウノトリの郷公園を中心に、さまざまな活動を展開しています。学年ごとに郷公園の探検や田んぼの生き物調査、地域とコウノトリとのつながり調査などに取り組んでいます。

特に思い出に残っている取り組みは、4年生の時に体験したアイガモ農法による米づくりです。田おこしから脱穀、もみすりまでを体験し、収穫後のわらでコウノトリの巣作りも行いました。米づくりの大変さと収穫した時の喜びを学びました。11月には、「お年寄りに学ぶ会」をしています。

これは、地域の高齢者を講師に招き、わらでぞうりや人形を作ったり、戦争の体験談を聞かせてもらったり、さまざまなことを学びました。そしてゲートボールを一緒に楽しみました。

また、三江小学校の特徴的な取り組みとして「ノーテレビデー」があります。これは、毎月10日を「家ではテレビを見ない、テレビゲームもしない日」と決めて、家族との団らんを楽しみます。

この日は、いつもより家族といろんな話ができるので、家族のつながりも深まったと思います。



「お年寄りに学ぶ会」で地域の高齢者にあやとり遊びを学ぶ子どもたち

三江小学校では、環境学習を中心として、地域とのかかわりを大切にしながら楽しい学習を進めています。

笑顔の輪

躍動感あふれる演奏で みんなを元気に

「豊岡ここのとり太鼓」（豊岡）

毎週火曜日の夜、豊岡小学校の音楽室から軽快な太鼓の音が聞こえてきます。

ここで午後7時から2時間

太鼓の練習をしているのは「豊岡ここのとり太鼓」の皆さんです。同グループは、平成12年に発足し、現在の会員数は約30人。小学生から大人までが所属し、汗を流しながら練習に励んでいます。

同グループ代表の吉岡賢次さん（正法寺）は「太鼓の力強さと演奏者の演舞、そして元気のよさが魅力です」と話します。

同グループは、今年9月に市民会館で開催された「第8回日本太鼓ジュニアコンクール」で優勝し、続く来年3月に石川県で開催される全国大会の出場が控えており、練習にも熱がこもっています。メンバーの熊田和也くん（豊岡南中1年）は「太鼓を叩くと気持ちいいです。練習は厳しい時もありますが、演奏

すると年齢の違うメンバーと一体になれる感じがたまりません」と元氣いっぱい話します。

また、同グループは誰もが気軽に太鼓の楽しさを体験できるようにと、毎週火曜日の練習会は「オープン会場」にし、太鼓演奏に興味のある人が見学に訪れています。

吉岡さんは「私たちが演奏する太鼓を見て聞いてもらって、一人でも多くの人を元気にしたいです。そして豊岡の活性化につなげたい」と目を輝かせていました。



全国大会の出場に向け、練習に打ち込むメンバー